

コミュニティ・スクール通信



～地域とともにある学校へ～

平成 30 年 11 月
千歳市教育委員会

第 4 号

～社会の力を学校に～千歳市コミュニティ・スクール調査研究指定校の取組

昨年度から試行錯誤を重ねて取り組まれた調査研究指定校の実践に基づき、平成 30 年 2 月に千歳市学校運営協議会規則が制定されました。正式に学校運営協議会が設置された 3 校の特徴的な取組をご紹介します。

<高台小学校>

高台小学校では、ボランティアの方の力を実技指導に生かしています。家庭科のミシン、裁縫の実習では各班に 1 名ずつボランティアの方が入って下さり、子どもは「すぐに聞くことができる、すぐそばでやって見せてくれるのでわかりやすい」、担任の先生は「子どもたち一人ひとりに目が届き、大変助かりました」と感謝しています。また今年から 3 年生の書写の学習にもボランティアの方に入ってもらっています。習字の筆の運び方や文字のバランスなどにアドバイスをもらいました。「筆をかえすところの書き方を教えてもらって、うまく書けるようになった」と子ども達は「できる喜び」を感じているようです。



<青葉中学校>

昨年から C・S の取組で非常に重要な「熟議」に力を入れています。今年度 1 回目の協議会では「青葉中学校の子ども達に身につけさせたい力は」と題し 2 グループに分かれて協議を行いました。「そのための取組として考えられること」「前提とする力は何かなど熱心に話し合われました。また昨年、今年と町内会と合同で避難所運営訓練を行っています。中 1 の総合的な学習の時間「地域について学ぶ（防災）」では①千歳市の防災活動の実際を知る②高齢者・障害者の疑似体験を行い、他の人の立場にたって考えることができる③ボランティア活動を中学生が地域と協力しながら行うことができる、がねらいです。地域の大人が教える姿に「大人の背中を見て育つ」を実感したそうです。9 月の胆振東部地震の際、青葉中学校も実際に避難所となり多くの方を受け入れましたが、そこでは、市の職員、学校の教職員とともに、避難した生徒も避難所の運営にあたりました。躊躇なく動く姿に取組の成果が見えたとのこと。



できる③ボランティア活動を中学生が地域と協力しながら行うことができる、がねらいです。地域の大人が教える姿に「大人の背中を見て育つ」を実感したそうです。9 月の胆振東部地震の際、

青葉中学校も実際に避難所となり多くの方を受け入れましたが、そこでは、市の職員、学校の教職員とともに、避難した生徒も避難所の運営にあたりました。躊躇なく動く姿に取組の成果が見えたとのこと。

<駒里小中学校>

学校運営協議会が設置され、今年度の取組は、地域の一番の行事である駒里祭りに学校・地域が一体となって取り組むことがメインでしたが、胆振東部地震により近くの地域が被害を受けてお祭りは中止となり、参拝のみとなりました。お祭りを盛り上げるために作成した行灯は、実際に吊り下げることではできませんでしたが、それまでの取組は、「地域に何かしてもらう」だけではなく、「お世話になっている地域のために何かをする」ことを子ども達に学ばせる取組です。

